

1. 東京大会の競技結果を踏まえた競技力向上施策の成果と課題

- 東京大会における好成績に、以下の取組が大きく貢献
 - ▶「競技力強化のための今後の支援方針」に基づく、NF(中央競技団体)の強化戦略プランの実効化支援、重点支援競技
 - ▶国の競技力向上事業の予算拡充による、NF におけるコーチ等設置、国際大会等への派遣や選手強化合宿の充実
 - ▶NTC の拡充整備によるトレーニング環境の充実と医・科学、情報等のサポートの充実
- 第2期スポーツ基本計画に掲げた政策目標(過去最高の金メダル数獲得等優秀な成績)は概ね達成
- コロナ禍での海外派遣の制限による強豪国の情報収集の難航や、心理面での影響(自国開催下のプレッシャー、コロナ禍、誹謗中傷等)により、目標としていた結果が残せなかった競技もあり、これらへの対応が課題

2. 「競技力強化のための今後の支援方針(鈴木プラン)」に基づく取組とその評価

これまでの取組の評価検証を踏まえ、今後進めるべき取組

(1) 中長期の強化戦略プランを支援するシステムの確立

→ NF の強化戦略プラン実効化支援、強化戦略プランに係るNF 評価結果の助成金配分等への活用を継続的に実施

(2) ハイパフォーマンスセンターの機能強化

- 諸外国の情報収集・分析、アスリートデータの分析などアスリート支援の充実、HPSC(ハイパフォーマンススポーツセンター)等の機能強化
- 地域関係機関との連携強化を通じた、NTC 競技別強化拠点におけるサポート機能の充実
- ハイパフォーマンススポーツに関する研究の推進と人材育成

(3) アスリート発掘への支援強化

→ アスリートの発掘・育成・強化を一貫して行う、日本版 FTEM 等を活用した、各NFにおけるアスリート育成パスウェイの構築

(4) 女性アスリートへの支援強化

- 産前産後のトレーニング支援の継続的な実施、女性コーチの更なる育成
- ジュニア段階も含む、女性アスリートの健康課題に係る科学的根拠に基づく育成・強化

(5) ハイパフォーマンス統括人材育成への支援強化

→ 選手強化活動の統括責任者やワールドクラスのコーチについて、これまでに構築された育成プログラムの成果の活用

(6) 東京大会に向けた戦略的支援

→ メダル獲得可能性の高い「重点支援競技」の継続的な選定

3. 国際競技力向上に向けて今後さらに進めるべき取組

上記の事項に加えて、更に、今後の国際競技力向上に向けて進めるべき取組

<パラ競技の競技力向上とオリ・パラ連携の促進>

- クラス分けに係る調査研究、人材育成・配置
- コーチ等の育成・配置、パラ競技用具の研究、大学等とHPSC との連携によるパラ競技の研究推進
- オリ・パラの競技団体の連携強化

<心理面での支援>

- メンタルトレーニングも含む、心理面でのサポートの充実

<地域における競技力向上を支える体制の構築>

- NF、都道府県競技団体、地方公共団体、企業、地域のスポーツ医・科学センター、大学等が連携して地域の競技力向上を支える体制の構築

<優秀なコーチ・スタッフ等の配置充実>

- NF 全体の強化責任者、監督、コーチ、スタッフ等の役割の明確化、海外からの招聘を含む優秀な人材の配置への支援

<感染症流行時等におけるトレーニング環境の確保>

- 先端技術を活用した多様な支援手法の研究などを通じた継続的な選手強化活動のための環境の整備

<競技団体の組織基盤の強化等>

- NF の自立的な運営に向けた組織基盤強化

4. 成果の検証に基づく取組の見直し

今後の取組については、オリ・パラ大会等の競技成績を踏まえて成果を検証し、随時見直しを行う。